

# 創立10年の節目を迎えて

豊田市矢作川研究所長  
梅村 諒二

21世紀は、環境と水の時代とも言われています。かつて、アユの豊漁が続いていた矢作川も、平成に入って水量・水質や生物相の変化、アユの不漁、河床変化や糸状藻類の繁茂等いくつかの課題が見えてきました。戦後60年、豊かな生活を追い求め、経済的には発展しましたが失ってしまったものも多く、今そのつけがさまざまな形で矢作川にも現れています。

こうした状況の中、地域の要望に応じて、平成6年(1994)に矢作川研究所は、豊田市・枝下用水土地改良区・矢作川漁協の三者により第三セクターとして設立されました。今年が創立10周年の節目に当たります。この間、関係機関はもとより、近辺の各種団体とも連携を深め、地域に根ざした活動を重視して取り組んできました。平成15年度(2003)からは第三セクターから豊田市営になりましたが、設立趣旨の「豊富な生物相と生態系の復活」を踏襲し矢作川川会議、矢作川学校、天然アユ調査会、各種愛護会、矢作川水産資源保護調査会、矢作川河口周辺海域アユ調査委員会等の事務局を受け持つとともに幅広い調査・研究、実践活動を展開してきました。中でも創立当初から矢作川産アユの生活史の調査・研究には力点を置いてきました。この間、アユの専門家、河川管理者、関係企業等との共同研究も重ね、矢作川産アユの産卵、孵化、流下仔魚、三河湾での冬季の生活、遡上、成長、縄張り等の実態を突き止めることができ、多数の課題が明らかになってきました。これらの課題を河川と海とに分けて整理すると次のようになります。

## 1. 河川におけるアユの生活史の課題(16項目)

### (1) 短期的に取り組むべき課題

明治用水路への親アユの迷入防止、アユの産卵保護、産卵場の造成、産卵親アユの放流  
流下仔魚の温排水対策、発電所温排水への稚アユの集対策、遡上アユの保護、魚道の改善  
夏季におけるアユの生態の解明、流域住民への啓蒙

### (2) 長期的に取り組むべき課題

流量の確保、水質の保全、上流からの砂利の供給の確保、水位日変化の軽減  
ダムの選択取水の操作改善、カワシオグサ、水草の異常繁殖の制御

## 2. 海におけるアユの生活史の課題(9項目)

### (1) 短期的に取り組むべき課題

砂利の流下の回復、泥状微細有機物の堆積機構の解明、流域住民への啓蒙

### (2) 長期的に取り組むべき課題

泥状微細有機物の堆積が他の生物へ及ぼす影響の把握、砂浜海岸の造成  
10月生まれのアユ仔魚が減耗している要因の解明  
発電所が冬季の低水温によるアユへの影響を緩和する効果の解明、水質の保全

この25項目の課題の中には、比較的容易に取り組める内容もありますが、必ず相手があり多くは難しい問題です。矢作川の生物相と生態系を復活させるには、これらのひとつひとつ時間をかけてでも関係機関(者)の理解と協力を求め、事業化していく必要があります。この間にも長期汚濁の対応策、産卵親魚の放流、発電所の温排水に集まる稚アユの対策、魚道の改善、水位の日変化対策等はある程度進んでいますが、その他の多くはこれから取り組まなければならない課題になっています。平成16年(2004)の秋から、矢作川下流域のアユの産卵場の造成が、河川管理者の協力により本格的に行われることになりました。矢作川には7つのダムがあり、砂利が供給されずアユの産卵場が固くなり、産卵深度も浅く産卵数が少ないので、これを解消するために行われるものです。アユ産卵場の整備の効果は、次年度以後にならないとわかりませんが、河川管理者の協力によってこの事業が行われることは、高く評価されるべきと思われます。

矢作川研究所は10周年の節目を迎えて、今後も地域に根ざした調査・研究に重点をおくとともに一層関係機関等とも連絡を密にして、事業化が進展するように取り組んでいく所存であります。大方の皆様の格別のご協力を重ねてお願いし、矢作川研究第9巻の発刊のことばといたします。

平成17年(2005)3月吉日